令和7年度　大田区立中富学校　自己評価　報告書

令和8年3月2日

○　本校の概要

本校の児童数は○○名、学級数9、特別支援教室拠点校である。
本校の特色は、基礎バランス型の"学富系教育"を採用した海育の学習である。また、令和8年度より高学年における教科担任制および「おおたの未来づくり」を実施していくことである。
令和7年度より、3つの研究（ユニバーサルデザインこそ教え方を主とした学校経営と推進している。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善 策	学校関係者評価 評価	人数	コメント
生き抜く個性を伸ばし多様な人間関係を築く力を育成する教育	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく資質や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、論理的思考力や創造性を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童アンケートの設問「おおいは、タブレット本体を活用して学習している。」 保護者学校評価アンケートの設問「学校は、タブレット等ICT機器を計画的に行い、学習に積極活用能力を付けている」の質問に対し、肯定的な回答（よくあてはまる）をほぼ○あてはまるした教員の平均	4：80%以上 3：70%以上 2：60%以上 1：60%未満	○大田区独自教育「おおたの未来づくり」研究実践校として、タブレット本体を活用した学習を推進している。 ○AIドリルを活用し、児童一人一人の学習状況を把握し、個別最適な学習を行っている。 ○プログラミング教育の充実を図るため、ロボットを活用した授業を実施している。 ○ICT機器を活用した授業を積極的に実施したことで、児童の理解度が高まり、学力の向上につながっている。 ○プログラミング教育やインターネット関連のテーマを取り上げることで、考えをアイデアで広く表現し表現するかが高まり、さらに、社会科の学習においては、インタビューやアンケートを実施し、情報を収集・分析・発信する学習が展開されている。 ※児童アンケートの設問「わたしは、タブレットを活用して学習している。」に対しての肯定的回答割合は91%。保護者アンケートの設問「学校は、タブレット等ICT機器を計画的に行い、学習に積極活用能力を付けている」の質問に対しての肯定的回答割合は85%。「わからない」は約14%であった。ここにおいても、学校の取り組みや環境に十分に応えていない割合があり、さらに、児童アンケートの肯定的回答割合と、保護者には差が生じる結果となった。学校は取り組みについて理解しているが、さらに分かりやすい説明が必要である。	B	1	・授業でもタブレットをこどもたちが使いこなしている。
		②学校内外での様々な体験活動や自己目標を自分事として考え、振り返り次に繋げるかた、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3			○地域に広がる様々な方との交流活動で、地域のプログラミング支援のもと、実際にICTを活用した授業を行うことで、児童の興味・関心が高まり、主体的に学習に取り組む姿勢が見られた。 ○ICT機器を活用した授業を積極的に実施したことで、児童の理解度が高まり、学力の向上につながっている。 ○プログラミング教育やインターネット関連のテーマを取り上げることで、考えをアイデアで広く表現し表現するかが高まり、さらに、社会科の学習においては、インタビューやアンケートを実施し、情報を収集・分析・発信する学習が展開されている。 ※児童アンケートの設問「わたしは、タブレットを活用して学習している。」に対しての肯定的回答割合は91%。保護者アンケートの設問「学校は、タブレット等ICT機器を計画的に行い、学習に積極活用能力を付けている」の質問に対し、肯定的回答（よくあてはまる）をほぼ○あてはまるした教員の平均	3：70%以上	B	1	
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		2：60%以上 1：60%未満		C	0	
		④大田区独自教育「おおたの未来づくり」の研究実践校として、カリキュラム開発や最新大学と連携した実践を行い、生涯にわたり主体・協働的な能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3				D	0	
お世界お界別たと目をつ標担うが人る材国際育都成しま	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、世界の様々な価値観を理解し、異文化を尊重するやり、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心を持ち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、実際に聞き取りながら会話をする場面を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者の学校評価アンケートの設問「学校は、他国文化を尊重する心や持続可能な社会を形成していく態度を育成しているの質問に対し肯定的な回答（よくあてはまる）をほぼ○あてはまるした教員の平均	4：80%以上 3：70%以上 2：60%以上 1：60%未満	○外国語教育指導員を活用し、ゲームや歌などの活動を通して楽しく学べる環境を整えている。 ○ALTの先生方と積極的に交流する機会を設けている。 ○ゲームなどの要素を取り入れ、楽しく学べる環境を整えている。 ○外国語教育指導員を活用し、ゲームや歌などの活動を通して楽しく学べる環境を整えている。 ○ALTの先生方と積極的に交流する機会を設けている。 ○ゲームなどの要素を取り入れ、楽しく学べる環境を整えている。 ※児童アンケートの設問「わたしは、外国語の授業が楽しいですか」対しての肯定的回答割合は約85%。保護者アンケートの設問「学校は外国語教育の研究を通して、英語やコミュニケーション能力の向上に努めている」の質問に対しての肯定的回答割合は約90%であった。ほぼ同じ傾向であるが、「わからない」は約10%であった。このことから、学校の取り組みや環境に十分に応えていない割合があり、さらに、児童アンケートの肯定的回答割合と、保護者には差が生じる結果となった。学校は取り組みについて理解しているが、さらに分かりやすい説明が必要である。	A	7	・のりつけ体験を全学年でできる事は地域や学校の歴史を知ることにもなるので、今後も続けて欲しい。
		②全ての教育活動の基盤となる、豊かな心と育て、その価値に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3			○児童アンケートの設問「学校は、他国文化を尊重する心や持続可能な社会を形成していく態度を育成しているの質問に対し肯定的な回答（よくあてはまる）をほぼ○あてはまるした教員の平均	B	3	
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3			○地域の方々を教育活動にふるえて積極的に活用し、多様な価値を持つ体験をさせ、児童が異なる価値観を理解し、尊重する力を育成している。 ○児童アンケートの設問「学校は、他国文化を尊重する心や持続可能な社会を形成していく態度を育成しているの質問に対し肯定的な回答（よくあてはまる）をほぼ○あてはまるした教員の平均	C	0	
		④学校の特色である「海育の学習」に、本格指令や作成した「海育の学習系統表」を基に全学年で取り組んでいる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3			※児童アンケートの設問「わたしは、外国語の授業が楽しいですか」対しての肯定的回答割合は約85%。保護者アンケートの設問「学校は外国語教育の研究を通して、英語やコミュニケーション能力の向上に努めている」の質問に対しての肯定的回答割合は約90%であった。ほぼ同じ傾向であるが、「わからない」は約10%であった。このことから、児童アンケートの肯定的回答割合と、保護者には差が生じる結果となった。学校は取り組みについて理解しているが、さらに分かりやすい説明が必要である。	D	0	
たい一個め人目基と標掲り3とが個性力と能育力成を発揮する	児童・生徒が豊かな人生を生きていくことで基礎となるために、豊かな心や健かな学力、健やかな体を育成します。また、私幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①児童生徒を中心とした各教科等での学習などで、個別最適な学びや協働的な学びの質的な向上を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケートの設問「わたしは、学習や生活について、よかかわりあう学習をしている。」 保護者学校評価アンケートの設問「学校は、学力の向上に向けさまざまな取り組みを行っている」の質問に対し肯定的な回答（よくあてはまる）をほぼ○あてはまるした教員の平均	4：80%以上 3：70%以上 2：60%以上 1：60%未満	○児童自身が課題に一歩一歩をもって課題解決に向かう姿勢を育てるために、学習の振り返りを大切にしている。 ○授業の中で、児童一人一人の学習状況を把握し、個別最適な学習を行っている。 ○学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施などを通して、さらその力に努めている。 ○体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。 ○私幼児期から中学校まで同じ経験を行うため、発達の連携やスタート・アップ・ミドルの各段階の連携を図っている。 ○「おおむね、できる」のない・図められる授業の実現のために、年間10回のの研修の実施など、授業改善のための研修に取り組んでいる。	A	9	・朗ランの参加者の多さに驚いた。良い取り組みだと思った。 ・挨拶者、歌には4ヶ国ランド今後は学力もアップすると思う。 ・大田区小学校駅伝9位もすばらしいと思う。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施などを通して、さらそのことに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3：70%以上 2：60%以上 1：60%未満	○授業の中で、児童一人一人の学習状況を把握し、個別最適な学習を行っている。 ○学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施などを通して、さらその力に努めている。 ○体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。 ○私幼小中一貫教育の様々な機会を通して、児童一人一人の学習状況を把握し、個別最適な学習を行っている。 ○学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施などを通して、さらその力に努めている。 ○体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。 ○私幼小中一貫教育の様々な機会を通して、児童一人一人の学習状況を把握し、個別最適な学習を行っている。	B	1	
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		2：60%以上 1：60%未満	○各学・生活指導による年間10回のOJT研修を実施し、教員の授業改善に取り組んでいる。 ○学習アンケートの設問「わたしは、授業や個別学習がよくなっていると思う。新しいやり方にむけて授業改善が図られている。」に対しての肯定的回答割合は91%であった。また、保護者アンケートの設問「学校は、学力の向上に向けさまざまな取り組みを行っている」の質問に対しての肯定的回答割合は90%で、学校の取り組みの様々な要素に関心がいっている考えられる。一方で、「わからない」が約10%あり、さらに、「あまりそう思わない」が約1%いた。また、学校の取り組みや環境に十分に応えていない割合があり、さらに、児童アンケートの肯定的回答割合と、保護者には差が生じる結果となった。学校は取り組みについて理解しているが、さらに分かりやすい説明が必要である。	C	0	
		④私幼児期から中学校まで同じ経験を行うため、発達の連携やスタート・アップ・ミドルの各段階の連携を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3			○学習アンケートの設問「わたしは、授業や個別学習がよくなっていると思う。新しいやり方にむけて授業改善が図られている。」に対しての肯定的回答割合は91%であった。また、保護者アンケートの設問「学校は、学力の向上に向けさまざまな取り組みを行っている」の質問に対しての肯定的回答割合は90%で、学校の取り組みの様々な要素に関心がいっている考えられる。一方で、「わからない」が約10%あり、さらに、「あまりそう思わない」が約1%いた。また、学校の取り組みや環境に十分に応えていない割合があり、さらに、児童アンケートの肯定的回答割合と、保護者には差が生じる結果となった。学校は取り組みについて理解しているが、さらに分かりやすい説明が必要である。	D	0	
		⑤私幼小中一貫教育の様々な機会を通して、児童一人一人の学習状況を把握し、個別最適な学習を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4						
		⑥おわる、できるために図められる授業の実現のために、年間10回のの研修の実施など、授業改善のための研修に取り組んでいる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4						
学個校別力目・標教師4力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がいきいきとやりがいを持って働くことができる魅力的な環境づくりを推進します。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童アンケートの設問「わたしは、学習や生活について、よかかわりあう学習をしている。」 保護者学校評価アンケートの設問「教師は、学力を含む自己の特性を伸ばすために授業の工夫をしているの質問に対し肯定的な回答（よくあてはまる）をほぼ○あてはまるした教員の平均	4：80%以上 3：70%以上 2：60%以上 1：60%未満	○タブレット等デジタル活用、学習プリントやワークシートなど学習スタイルを工夫し、児童が主体的に学習に取り組めるよう工夫した。また、学習支援ソフトを活用し、児童の学習状況を把握しながら、個別最適な学びを進めた。 ○校内研究や各種研修を通して、教師の授業力向上に努めた。 ○個別の学校教科担任制等推進校として、高学年の一部教科の担任制に取り組み、教員の専門性を生かした授業を行っている。 ○教職員が互いに学び合う校内研修を積極的に実施し、授業改善や指導力向上に努めた。 ○教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行った。 ○学校マネジメントの設問「学校は、学力や子育て支援の充実などに向けて、効果的な予算執行ができている。」に対しての肯定的回答割合は91%であった。また、保護者学校評価アンケートの設問「教師は、学力を含む自己の特性を伸ばすために授業の工夫をしているの質問に対しての肯定的回答割合は90%であった。ほぼ同じ傾向であるが、「わからない」が約10%あり、さらに、「あまりそう思わない」が約1%いた。また、学校の取り組みや環境に十分に応えていない割合があり、さらに、児童アンケートの肯定的回答割合と、保護者には差が生じる結果となった。学校は取り組みについて理解しているが、さらに分かりやすい説明が必要である。	A	10	・不登校の人ういうのは多いが、先生方の下等なご指導のおかげだと思う。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3			○各学・生活指導による年間10回のOJT研修を実施し、教員の授業改善に取り組んでいる。 ○学習アンケートの設問「わたしは、授業や個別学習がよくなっていると思う。新しいやり方にむけて授業改善が図られている。」に対しての肯定的回答割合は91%であった。また、保護者アンケートの設問「学校は、学力の向上に向けさまざまな取り組みを行っている」の質問に対しての肯定的回答割合は90%で、学校の取り組みの様々な要素に関心がいっている考えられる。一方で、「わからない」が約10%あり、さらに、「あまりそう思わない」が約1%いた。また、学校の取り組みや環境に十分に応えていない割合があり、さらに、児童アンケートの肯定的回答割合と、保護者には差が生じる結果となった。学校は取り組みについて理解しているが、さらに分かりやすい説明が必要である。	B	0	
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行った。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3			○個別の学校教科担任制等推進校として、高学年の一部教科の担任制に取り組み、教員の専門性を生かした授業を行っている。 ○教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。 ○教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行った。 ○学習アンケートの設問「わたしは、授業や個別学習がよくなっていると思う。新しいやり方にむけて授業改善が図られている。」に対しての肯定的回答割合は91%であった。また、保護者アンケートの設問「学校は、学力の向上に向けさまざまな取り組みを行っている」の質問に対しての肯定的回答割合は90%で、学校の取り組みの様々な要素に関心がいっている考えられる。一方で、「わからない」が約10%あり、さらに、「あまりそう思わない」が約1%いた。また、学校の取り組みや環境に十分に応えていない割合があり、さらに、児童アンケートの肯定的回答割合と、保護者には差が生じる結果となった。学校は取り組みについて理解しているが、さらに分かりやすい説明が必要である。	C	0	
		④全ての教職員が、やりがいを持って働くことができる魅力的な環境づくりを進める。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4				D	0	
た自個めら分目学し標びを5をい支き援しいきます生きる	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、発達の理解・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケートの設問「わたしは、いじめはゆるさないと思っています。」 保護者学校評価アンケートの設問「学校は、「いじめはゆるさない」という雰囲気が全校に浸透しているの質問に対し肯定的な回答（よくあてはまる）をほぼ○あてはまるした教員の平均	4：80%以上 3：70%以上 2：60%以上 1：60%未満	○毎月開催される「校内特別支援委員会」「教育推進会議」では、発達障害や特別支援教育の理解を深めるための研修を実施している。 ○毎月開催される「校内特別支援委員会」「教育推進会議」では、発達障害や特別支援教育の理解を深めるための研修を実施している。 ○毎月開催される「校内特別支援委員会」「教育推進会議」では、発達障害や特別支援教育の理解を深めるための研修を実施している。	A	10	・こどもと先生が仲がよい。登と違いこどもと先生の距離がよい意味で近くないっる様に感じる。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3：70%以上 2：60%以上 1：60%未満	○毎月開催される「校内特別支援委員会」「教育推進会議」では、発達障害や特別支援教育の理解を深めるための研修を実施している。 ○毎月開催される「校内特別支援委員会」「教育推進会議」では、発達障害や特別支援教育の理解を深めるための研修を実施している。 ○毎月開催される「校内特別支援委員会」「教育推進会議」では、発達障害や特別支援教育の理解を深めるための研修を実施している。	B	0	
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの連携等、児童・生徒・保護者の相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの悩みや可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4			○学校マネジメントの設問「学校は、学力や子育て支援の充実などに向けて、効果的な予算執行ができている。」に対しての肯定的回答割合は91%であった。また、保護者学校評価アンケートの設問「教師は、学力を含む自己の特性を伸ばすために授業の工夫をしているの質問に対しての肯定的回答割合は90%であった。ほぼ同じ傾向であるが、「わからない」が約10%あり、さらに、「あまりそう思わない」が約1%いた。また、学校の取り組みや環境に十分に応えていない割合があり、さらに、児童アンケートの肯定的回答割合と、保護者には差が生じる結果となった。学校は取り組みについて理解しているが、さらに分かりやすい説明が必要である。	C	0	
		④校内特別支援教室（サポートルーム）拠点校として、その強みを生かし、支援の必要な児童への全校組織的の充実の組織的な対応を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3			○毎月開催される「校内特別支援委員会」「教育推進会議」では、発達障害や特別支援教育の理解を深めるための研修を実施している。 ○毎月開催される「校内特別支援委員会」「教育推進会議」では、発達障害や特別支援教育の理解を深めるための研修を実施している。 ○毎月開催される「校内特別支援委員会」「教育推進会議」では、発達障害や特別支援教育の理解を深めるための研修を実施している。	D	0	
安基個心軟別なで目教育標育活6環的な学習く安り開ま全学ます・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備や施設を充実するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを図まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者学校評価アンケートの設問「学校は、安全に関する知識を理解し、対応の仕方を身に付けているの質問に対し肯定的な回答（よくあてはまる）をほぼ○あてはまるした教員の平均	4：80%以上 3：70%以上 2：60%以上 1：60%未満	○毎月「安全点検」を行い、修繕が必要な箇所については、速やかに主事や業者に依頼し修繕している。 ○毎月「避難訓練」を実施し、児童が主体的に避難行動をとれるよう、また、教職員が適切な指示や誘導ができるよう、防災士の指導を受けている。 ○毎月「安全点検」を行い、修繕が必要な箇所については、速やかに主事や業者に依頼し修繕している。 ○毎月「避難訓練」を実施し、児童が主体的に避難行動をとれるよう、また、教職員が適切な指示や誘導ができるよう、防災士の指導を受けている。 ○毎月「安全点検」を行い、修繕が必要な箇所については、速やかに主事や業者に依頼し修繕している。 ○毎月「避難訓練」を実施し、児童が主体的に避難行動をとれるよう、また、教職員が適切な指示や誘導ができるよう、防災士の指導を受けている。	A	10	・非常スマホ・タブレット全体3時間の様々未を読む時に時間はかなくなっていると思う。図書ボランティアの読み聞かせにより、未に対して興味深くがもてるようになるのではないかと期待する。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3：70%以上 2：60%以上 1：60%未満	○避難学習や防犯安全の講習等を含め、児童が主体的に避難行動をとれるよう、また、教職員が適切な指示や誘導ができるよう、防災士の指導を受けている。 ○避難学習や防犯安全の講習等を含め、児童が主体的に避難行動をとれるよう、また、教職員が適切な指示や誘導ができるよう、防災士の指導を受けている。 ○避難学習や防犯安全の講習等を含め、児童が主体的に避難行動をとれるよう、また、教職員が適切な指示や誘導ができるよう、防災士の指導を受けている。	B	0	
		④読書学習活動を活用した学校図書館・読書環境の整備を進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4			○保護者アンケートの設問「こどもは、安全に関する知識を理解し、対応の仕方を身に付けているの質問に対し、肯定的回答割合は約85%。「わからない」は約14%であった。ここにおいても、学校の取り組みや環境に十分に応えていない割合があり、さらに、児童アンケートの肯定的回答割合と、保護者には差が生じる結果となった。学校は取り組みについて理解しているが、さらに分かりやすい説明が必要である。 ○児童アンケートの設問「学校は、安全に関する知識を理解し、対応の仕方を身に付けているの質問に対し、肯定的回答割合は約85%。「わからない」は約14%であった。ここにおいても、学校の取り組みや環境に十分に応えていない割合があり、さらに、児童アンケートの肯定的回答割合と、保護者には差が生じる結果となった。学校は取り組みについて理解しているが、さらに分かりやすい説明が必要である。	C	0	
								D	0	
学地学習校域校別をつ二ユ重視こと協リ・ま子すどの域連携し・て協働による	地域コミュニティの核としての学校づくりや子育て支援と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	①地域コミュニティの核としての学校づくりや子育て支援と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者学校評価アンケートの設問「学校は、地域の人材や施設と連携し、教育活動に生かしているの質問に対し肯定的な回答（よくあてはまる）をほぼ○あてはまるした教員の平均	4：80%以上 3：70%以上 2：60%以上 1：60%未満	○大会集合のふるさと祭りで海英ボッサ体験ボランり、「おおたふるさとの未来の祭」でアンケートの協力をするなど、地域の方々と交流する機会を設けている。 ○地域の方々を教育活動にふるえて積極的に活用し、多様な価値を持つ体験をさせ、児童が異なる価値観を理解し、尊重する力を育成している。 ○ICT機器を活用した授業を積極的に実施したことで、児童の理解度が高まり、学力の向上につながっている。 ○プログラミング教育やインターネット関連のテーマを取り上げることで、考えをアイデアで広く表現し表現するかが高まり、さらに、社会科の学習においては、インタビューやアンケートを実施し、情報を収集・分析・発信する学習が展開されている。 ※児童アンケートの設問「わたしは、タブレットを活用して学習している。」に対しての肯定的回答割合は91%。保護者アンケートの設問「学校は、タブレット等ICT機器を計画的に行い、学習に積極活用能力を付けている」の質問に対し、肯定的回答（よくあてはまる）をほぼ○あてはまるした教員の平均	A	8	・中富小学校は地域との つながりが、特地域より強いと聞いている。地域の方の協力はとても ありがたく、こどもだけでなく保護者の方にも、感謝の気持ちをもってもらえたらよいと思う。そのために取組の周知が今後の課題である。
		②豊下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3：70%以上 2：60%以上 1：60%未満	○毎月発行される「学校だより」応通して、家庭でのこどもの見守りをこどもの発見に関する基本的な考え方などを保護者に伝えている。また、PTA広報委員等や中心に「地域防犯者の活動」を実施し、地域の方々と連携した児童の見守り活動を行っている。 ○学校と地域との連携が円滑に行われるよう、毎月「学校地域支援本部コーディネーター連絡会」を開催し、コーディネーター3名や校長が出席し、学校の教育活動や課題について情報共有している。 ○毎月発行される「学校だより」応通して、家庭でのこどもの見守りをこどもの発見に関する基本的な考え方などを保護者に伝えている。また、PTA広報委員等や中心に「地域防犯者の活動」を実施し、地域の方々と連携した児童の見守り活動を行っている。 ○学校と地域との連携が円滑に行われるよう、毎月「学校地域支援本部コーディネーター連絡会」を開催し、コーディネーター3名や校長が出席し、学校の教育活動や課題について情報共有している。	B	2	
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2：60%以上 1：60%未満	○学校マネジメントの設問「学校は、地域の人材や施設と連携し、教育活動に生かしているの質問に対し、肯定的回答割合は91%であった。また、保護者学校評価アンケートの設問「教師は、学力を含む自己の特性を伸ばすために授業の工夫をしているの質問に対しての肯定的回答割合は90%であった。ほぼ同じ傾向であるが、「わからない」が約10%あり、さらに、「あまりそう思わない」が約1%いた。また、学校の取り組みや環境に十分に応えていない割合があり、さらに、児童アンケートの肯定的回答割合と、保護者には差が生じる結果となった。学校は取り組みについて理解しているが、さらに分かりやすい説明が必要である。 ○児童アンケートの設問「学校は、安全に関する知識を理解し、対応の仕方を身に付けているの質問に対し、肯定的回答割合は約85%。「わからない」は約14%であった。ここにおいても、学校の取り組みや環境に十分に応えていない割合があり、さらに、児童アンケートの肯定的回答割合と、保護者には差が生じる結果となった。学校は取り組みについて理解しているが、さらに分かりやすい説明が必要である。	C	0	
		④コミュニティ・スクールへの移行をめざして、学校支援地域本部・地域教育連絡協議会を設置して、学校・家庭・地域が連携した活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3			○児童アンケートの設問「学校は、安全に関する知識を理解し、対応の仕方を身に付けているの質問に対し、肯定的回答割合は約85%。「わからない」は約14%であった。ここにおいても、学校の取り組みや環境に十分に応えていない割合があり、さらに、児童アンケートの肯定的回答割合と、保護者には差が生じる結果となった。学校は取り組みについて理解しているが、さらに分かりやすい説明が必要である。 ○保護者アンケートの設問「学校は、地域の人材や施設と連携し、教育活動に生かしているの質問に対し、肯定的回答割合は91%であった。また、保護者学校評価アンケートの設問「教師は、学力を含む自己の特性を伸ばすために授業の工夫をしているの質問に対しての肯定的回答割合は90%であった。ほぼ同じ傾向であるが、「わからない」が約10%あり、さらに、「あまりそう思わない」が約1%いた。また、学校の取り組みや環境に十分に応えていない割合があり、さらに、児童アンケートの肯定的回答割合と、保護者には差が生じる結果となった。学校は取り組みについて理解しているが、さらに分かりやすい説明が必要である。	D	0	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。